



▲田原東部市民館 (☎22局5027)
校区民の憩いと交流の市民館



▲お神楽 (谷熊町)



▲納涼夏祭り (盆踊り)



▲大念仏踊り (豊島町)

田原東部

● 校区自己紹介①

基礎データ

- 【人口】 3,915人 (H20.6.30現在)
- 【世帯】 1,156世帯 (H20.6.30現在)
- 【面積】 約669.0ha
- 【公共施設】 田原東部小学校・田原東部保育園
- 【主な産業】 農業・畜産業
- 【その他】 やぐま台駅・豊島駅 (豊橋鉄道渥美線)



【校区の特色】

我が田原東部校区は、豊橋市に隣接する市の東に位置している。2つの駅があるため、田原市街や豊橋市街への交通の利便性があり、さらに、名古屋～神戸、浜松～東京へのアクセスも比較的良好い。

河川、森林、田畑などの自然環境に恵まれてはいるが、維持管理に難がある。有名ではないが、地域には神社・寺など伝統的な文化財がある。しかし、観光対象とするほどには整備されていない。

一番の特色は、素朴で開放的な意識が校区民にあることである。

【多彩なまつり】

としま だいねんぶつ
豊島町の 大念仏踊り

江戸元禄時代に隆盛した大念仏

踊りの流れを受けており、一般的な盆踊りとは異なり、盆帰りした霊に対し「念仏を以って踊り、精霊を慰めること」を趣旨としている。

歌詞・踊り・振りは簡易だが、幽雅な趣を有している。後継者がなく一時休止状態となったが、平成16年から活動を再開し、町内児童や小学校の学芸会にも大念仏踊りの伝承を進めている。

かぐら 谷熊町のお神楽

明治初期の二川雲谷神楽との交流に刺激され、若者有志が雲谷神楽舞を修得し、岩崎神社の大祭に悪魔祓いの舞として奉納したことが始まりといわれる。大正4年に本殿造営遷宮式に青年衆が女装して祝賀会を盛り上げた時から、通称女神楽と呼ばれている。

納涼夏まつり (盆踊り)

「日本はもはや戦後ではない」といわれた昭和33年ごろから、娯楽と男女の出会いの場(多くのカップルが誕生)として始めた盆踊りも、すでに半世紀が過ぎている。

【校区の新しい顔】

東部第二最終処分場

市民生活から排出される家庭ゴミの、最後の保管場所(処分場)が立地している。田原市における「21世紀の新しい塚」といえよう。

「東部里山公園」「ビオ・とうぶ」

「東部学習自然林」

恵まれた自然を生かす取り組みとして、上記施設の整備を推進している。

(文:田原東部校区)